



平成21年(2009年) 11月30日発行

ふくしまファンクラブ

会報 第11号



農家レストラン
新鮮野菜を素材に懐かしい
田舎料理が楽しめる(写真:
飯舘村の「気まぐれ茶屋ち
えこ」要予約)



蕎麦
阿武隈の寒暖の差がおいしい蕎麦を
育てる。「挽きたて」「打ちたて」
「茹でたて」で味わいたい(写真:
川内村の「たかやま倶楽部」)



道標
「あぶくまロマンチック
街道」の道標(写真:浪
江町津島地内。材料は飯
舘村特産の御影石)



あぶくまロマンチック街道

相双地方の情報は相双
ビューローからどうぞ
相双地域の観光・物産
情報を発信するウェブ
サイト「相双ビューロー」
が開設されました。な
旬の話題やイベントなど
地域情報が満載です。
皆さんのアクセスをお
待ちしています。



アドレス
<http://yumesoso.jp/>

阿武隈地域とは福島県の
中通りと浜通りに挟まれた
標高200〜700mに広がる丘陵
地帯です。高原のため夏は
涼しく、冬はマイナス10℃
になる地区もあります。積
雪はそれほどありません。
花崗岩主体の安定した強固
な地盤が特徴であり、地震
災害発生の恐れが低い地域
です。

この阿武隈地域の飯舘村、
浪江町津島地区、葛尾村、
田村市都路町(旧都路村)、
川内村の五つの市町村を南
北に貫く国道399号線を軸と
したエリアが「あぶくまロ
マンチック街道」です。
この街道は四季折々の自
然が楽しめる高原のワイン
ディングロードです。田畑
や牧草地、森林が続く沿線
には、阿武隈ならではの特
産品があります。

「凍(し)み餅」「凍
(し)み大根」「芋がら」
などは、阿武隈の気候を生
かした生活の知恵です。小
麦の栽培は古くから行われ
ており、うどんや小麦まん
じゅう、パンなどが作られ
ています。最近では、蕎麦
の栽培にも力を入れており、
会津に負けず、おいしい蕎
麦だと評判です。森林の恵
みも豊富です。春から秋に
かけて山菜やキノコが楽し
めます。また、おいしいだ
けでなく、健康にいいと注
目のエゴマはこの地域の特
産です。

沿線市町村では直売所に
力を入れており、これら特
産品を求めることができま
す。

阿武隈の広い空の下に続
く、「あぶくまロマンチッ
ク街道」を訪れてみません
か。



数多くの作品を展示販売している「生活工芸館」



奥会津編み組細工

毎年冬になると、奥会津の人々は、手仕事として山ブドウやマタタビ、ヒロロといった自然の素材を使って編み組細工に取りかかってきました。この伝統ある工芸品は今も地域に根付いています。

今回は、大沼郡三島町にある「生活工芸館」を訪ねて、館長の角田陽市さんに「奥会津編み組細工」に関するお話を伺いました。

◆ 編み組細工とは ◆

「伝統的工芸品」として平成十五年に経済産業大臣の指定を受けた「奥会津編み組細工」。各々の特長を見てみましょう。

「山ブドウ細工」：主にかごなどに耐えられるよう作られ、頑丈でとても長く使うことができます。生活工芸館には、百五十年以上昔のものが展示されていますが、今でも利用可能なほどしっかりとっています。長く使えば使うほど手になじむ自然ならではの素材です（写真①）。



◆山ブドウ細工◆



◆マタタビ細工◆

「マタタビ細工」：主に笹（ざる）など。米とぎや野菜を洗う際に利用されました。触れると弾力があって、また、水きれが良いのが特長です。見た目のやさしい白色が印象的ですが、使い込むと、あめ色に変化していきます（写真②）。



◆ヒロロ細工◆

「ヒロロ細工」：抱えバッグ、手提げかごとして人気のヒロロ素材（ミヤマカンスゲ）。見た目のほっとする色調に加え、手に取るといかにも天然の恵みといったやわらかい感触が味わえます（写真③）。

※三島町生活工芸館が東京にやってくる！詳しくは8ページの「ふるさと福島大交流フェア」をご覧ください。



④生活工芸館の角田館長。
「ストラップ程度の簡単なものであれば製作体験ができますので、ぜひ工芸館にお越しください！」

これら、3種の伝統的工芸品を中心に、クルミ、アケビなどの素材で作られた靴（かばん）やブローチ、ストラップなど、生活工芸館の商品ラインナップは常時数百点に上ります。
「自然の素材を活かし、職人が全て手作りしたものです。一生使えるバックやかごですから、ぜひ、三島町に足をお運びください。ご



⑤ヒロロ細工の原料。山間の谷間、特に水際に群生する。谷間に1つに、縫（よ）ってバックにしたものを、約50メートル使う。

自身の目で見られて、触れられて商品を選んでいただきたいです」と館長。

◆ふるさと会津工人（じふじん）まつり◆

これらの品々は生活工芸館での販売以外に、各種イベントなどで展示・販売されます。その中で最も大きなイベントが毎年6月第2

日曜日の属する土、日に行われる「ふるさと会津工人まつり」です。

「工人」は全国から集まり、その数何と150名。「生活工芸館」の前に広がる「ナラ林」に多くのテントが並びます。近頃のエコブームで数多くのテレビや雑誌に取り上げられたことから、多くの人々がお目当ての製品を求めて全国から集まります。「今年の入場者数は2万人を超え、町内の駐車場を全て使って対応しました。高速道路料金の割引効果もあり、県外の方はそのうち約6割を占めました」。ファンクラブの皆さん、来年の6月はぜひこのお祭りにも足をお運びください。

◆編み組細工の今後◆

このように、多くの人の目に触れるようになった「編み組細工」ですが、今、将来に向けた取組が注目されています。原料となる「山ブドウ」のつるは山中に自生し20年ほど経ったも

のが良いとされていいますが、山林の荒廃などを受け、収穫量が落ち込んでいました。これに対して、「『生活工芸運動（※）友の会』では、以前より町内で栽培実験を行ってまいります。今年度は収穫された約1キロの“つる”が材料として使えるかどうかを検証していきます。」と角田館長がおっしゃるように、材料確保に向けた取組の成果が見えるところまで来ています。

◆おわりに◆

今回、角田館長のお話で最も印象的だったのが、前段で触れた生活工芸運動に携わっている工人の方達が

皆生き生きしているということ。現在地元で活躍している約170名の工人（職人）のうち8割超が70歳以上の方ですが、生き甲斐を持っている姿勢が山あいの山村を明るく照らしています。使えば使うほどにつやが増し、独特の風合が出てくるこれら自然素材で作られた品々。工人達の思いをバッグやかごに見いだしてみませんか。

■ものづくり体験が可能です！（有料）。ヒロロ細工のコースターや山ブドウ細工のおしぼり入れなどの編み組細工や三島町名産の会津桐を使った木工体験が楽しめます。
※事前予約が必要な体験もあります。
詳しくは生活工芸館まで。

【生活工芸館】
住所 福島県大沼郡三島町大字名入 字諏訪ノ上395
電話 0241-48-5502
FAX 0241-52-2175
入館無料
営業時間 9:00～17:00
休日 月曜、祝日の翌日、年末年始
HP <http://www.okuaizu-amikumi.jp/>

《案内図》



※「生活工芸運動」…祖先が守り抜いてきた伝統文化を見直し、暮らしの中から生まれた伝統的なものづくりの技と豊かな自然を現代の生活に生かそうと、三島町で取り組んできた運動。編み組の他、桐タンスや各種木工品などが含まれる。



ふくしまをしる

識

ふくしま歴史探訪

朝河貫一博士

生い立ち

辞書の中身を丸暗記するために少しづつ破いて食べるながら覚える。漫画やアニメの中でそういった場面を見た事がある方も多いと思います。しかしこれは架空の話ではありません。英語の辞書を覚えた頃から食べる程の猛烈な勉強をし、後に世界的な歴史学者となり、平和のために力を尽くした福島県人がいます。今回はその人、朝河貫一博士をご紹介します。



朝河貫一は、1873年（明治6年）、会津藩と混乱の最中にあつた旧二本松藩の藩士の家に生を受けました。未熟児として生まれ、特に言語機能の発達が遅れていた貫一でしたが、両親（※1）の努力などにより次第に頭角を現し、1892年（明治25年）福島尋常中学校（現福島県立安積高等学校）を首席卒業。その後進学した東京専門学校（現早稲田大学）文学科も首席で卒業しました。そして1895年（明治28年）、東京専門学校時代知遇を得た横井時雄や徳富蘇峰、大隈重信、勝海舟らの援助を得て、念願であつ

た米国留学を果たしました。

国際相互理解のために

渡米後、横井時雄の友人ウィリアム・タッカーが学長を務めていたダートマス大学に入学。貫一はここでも優秀な成績を修めました。1899年（明治32年）には、イエール大学大学院に入学、1910年（明治43年）に助教授に、その後準教授を経て、1937年（昭和12年）には教授に昇進しました。大学において「日本文化史」や「東洋近代史」などの講義を担当し、欧米の人々に日本や東洋を深く知ってもらうことに尽力しました。またイエール大学図書館の「東アジアコレクション」のキュレーター（※2）も務め、東洋と西洋の学術交流のためにも大きな役割を果たしました。

日本への愛情と失望

1904年（明治37年）に日露戦争が勃発した当初、東洋の一小国であった日本に対する理解がまだ乏しかつ

た米国内

において、日本には批判的な立場の人も少なくありませんでしたが、貫一は論文

『日露衝突』を発表し、客観的な根拠を示しながら日本が自国の存亡のために宣戦したことなどを力説し、多くの人の同情や共感を勝ち得ました。

※1 両親
貫一は母方の養育下で育ち、父方の実母の養育下で育ち、母方の実母の養育下で育ちました。

※2 キュレーター
博物館や図書館などの専門職で、学芸学的な知識や専門知識を必要とする職。

※3 朝河賞
福島県教育委員会が、朝河貫一の業績を称え、朝河賞を授けようとしたが、朝河貫一の遺族がこれを辞退した。朝河賞は朝河貫一の業績を称えるために、朝河貫一の遺族が辞退した。

後継者

1948年（昭和23年）、貫一は敗戦後の日本の混乱に心を痛めながら、アメリカの地で亡くなりました。妻ミリアムを早くに亡くした後、貫一は孤独を通し、子どもがいなかった貫一でしたが、その死後も、多くの人が貫一の業績や生き方に影響を受け、後継者として奔走するようになりました。朝河貫一のスピリッツは現在も国際平和や国際理解のために生き続けています。



参考文献：『最後の日本人』阿部善雄著：岩波現代文庫 『日本の禍機』朝河貫一著：講談社学術文庫 『今に生きる朝河貫一』その生涯と業績』朝河貫一博士顕彰協会事務局発行 『評釈 朝河貫一・珠玉のこぼれ』朝河貫一研究会編 取材協力：福島県立安積高等学校 二本松市教育委員会、安積歴史博物館



博士が通った旧福島尋常中学の建物。現在では国の重要文化財に登録され、安積歴史博物館として、地域の歴史や教育に係る様々な展示がなされている。朝河貫一に関するコーナーもある。

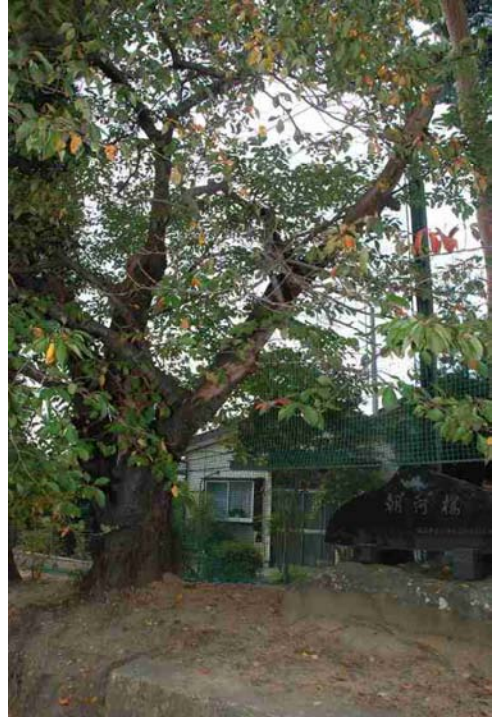
『安積歴史博物館』

郡山市開成5丁目25-63

電話024-938-0778

休館日 月曜日、国民の祝日の翌日、年末年始

貫一の足跡を辿る



朝河貫一が在学時、ページを食べつくしてしまい表紙だけになってしまった英語の辞書を根本に埋めた桜の木。福島県立安積高等学校の校庭の一隅にあり、「朝河桜」と言われている。同校では卒業式に成績優秀者に「朝河賞」を授与している。（※3）



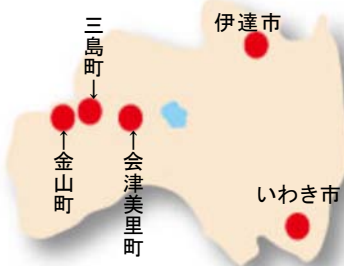
少し高台になっている二本松市金色（かないろ）墓地にある朝河貫一の墓。今もここから国際平和を見守っているのかもしれない。（米國ニューハイブロン市と二本松市の二箇所にも墓がある）

田舎暮らし情報 (体験施設整備中)

田舎暮らしを検討するにあたっては、実際にその土地に住んでみないとわからないこともありますし、いきなり移住というのは、抵抗がある方もいらっしゃるかと思えます。

今年度、県の「ふくしまの地域活性化支援事業」により、福島県内の5箇所で民間の団体が体験住宅の整備を進めております。一定期間お試し暮らしをして、福島県の自然や食べ物、温かい人情に触れてみませんか。

利用開始時期などについては、改めてお知らせいたします。





ふくしまに住む

Reason to Live in Fukushima



千世さんの農園近くの田園風景

「絵のような風景」という言葉があります。喜多方市中心部から裏磐梯に向かう途中の丘陵地帯にある熊倉地区は、会津の田園地帯が見渡せる、まさに「絵のような風景」の一つです。今回はこの熊倉地区に移住し、農園を運営しながら童話・児童文学作家としても活躍している千世繭子（ちせまゆこ）さんをご紹介します。

一目惚れし 移住を決意

千世さんは福島県郡山市生まれ。大学卒業後県内のテレビ局に勤務していましたが、物語が書きたくて上京。約20年間東京で暮らし、児童文学作家として活躍していました。しかし約10年前、取材の途中現在の農園の場所を紹介され一目惚れし、3年ほど東京との間を行ったり来たりする二地域居住を続けた後、現在の家を建て完全に移住しました。近くに住む女性たちと一緒に運営している「森姫農園」では、リンゴや小麦（ゆき

ちから（※1）、ブルーベリーなどを栽培しています。もちろん、作家としての活動も続けており、熊倉の動物が登場する作品を多く世に出しています。

交流の拠点

森姫農園には、畑で採れた作物や、ジュースやケーキなどの加工品、女性たちが作った小物などを販売するショップと、作物を使った料理などを題材にしたワークショップ（※2）を開くためのあずまやがあり、ワークショップ開催時などは多くの人で賑わいます。また、以前よりグリーン・ツーリズムの受け入れも積極的に

行っており、学校生徒を中心に多くの方が農園を訪れています。千世さんの自宅は農家民宿になっていますが、こちらにはフランスのソムリエや、有機栽培への関心の高い韓国のお客さんも来たことがあるそうです。丘陵をしばらく登った、舗装道路も途絶えたところにある農園ですが、様々な人々が砂利道を走る音を立てながら、日々磁石のように引きつけられています。

本物の暮らしの伝承

「農業って仕事は本当に忙しい。もっと長い物語も書きたいけどなかなか書けない」とおっしゃる千世さん

ん。昔ながらの、知恵の詰まった暮らしを、生活の中にきちんと生かしながら残すことが現在、そして将来に向けてのメインテーマだとのこと。本物の暮らし伝承のため、また消費者に農産物の適正価格を再考してもらおうことを目的に、収穫された農産物が料理になるまでの課程を見せる「バックキッチン」も近い未来、建設できたらとのこと。話しもありました。

千世さんの活動や作品の磁力はこれからますます強くなっていくものと思われまます。皆様もぜひ一度、「絵のような風景」喜多方市熊倉をお訪ねください。



千世繭子さん



森姫農園のシンボリック存在のショップ「雲の時間」と併設のあずまや



自宅兼農家民宿。ここが一番高いところにあり、眺望がいい。

※1 ゆきちから・・・東北農業研究センターが開発した耐寒性の強い小麦。パンや麺の原料に適している。
※2 ワークショップ・・・体験型の講座の意。農園で採れた作物を使った料理などを題材に、試食や意見交換などを行っている。



●森姫農園情報●

住所:喜多方市熊倉町都字沼平乙ノ月里

電話・FAX:0241-22-2748 HP:http://www.morihime.jp/ (森姫農園)

※ショップ「雲の時間」は土日のみオープン(今年はクリスマスまでオープン)

※ワークショップは5月から12月まで不定期開催(詳しくはHPをご覧ください)

※グリーン・ツーリズムや農家民宿については、喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンター(電話 0241-24-5237)にお尋ねください。



ショップ「雲の時間」内に置かれている千世さんの作品



農園のメンバーたちが作った小物類。よく売れているそうです。

ファンクラブ 会員紹介コーナー

第三回目は、多くの方にファンクラブを勧めてくださっている、さいたま市の「福島銀行大宮支店」の皆さんにお話を伺いました。

スタッフは総勢8名。ほとんどの方は福島から通勤でいらっしやっています。

―福島を離れてみて、いかがですか。

やはり食べ慣れた福島の米が恋しくなります。福島では、桃など季節の果物

もいつでも身近にありました。(酒井さん)

福島に帰ると、「山」が見えることでほっとします。(岩井さん)

と、改めて福島の良さを実感されていていらっしやいます。

「大宮は、東北から団塊の世代が多く出てこられています。ふるさとの匂いのある街なのかもしれません。」と、中谷幸信支店長。

大宮支店は、さいたま市周辺のみならず東京も営業エリアとなっていて、スタッフの皆さんは、業務の傍ら福島県出身の方だけでなく福島県に興味がある方にも「会報が届くたびに『ふくしま』を思い出していただければ。」と、広くファンクラブをPRしていただいております。

取引先のお店にも会報が置いてあり、いらっしやつたお客様にも会報を御覧いただいているという嬉しい声もいただきました。

また、店内に入ると、まず目に入るのが、福島県関

窓口に設置されている観光パンフレットコーナー(実際はもっと多くの種類があります)



連のさまざまな観光パンフレット。県内各地のものを取り揃え、特に温泉のパンフレットはお客様に好評とのこと。

さらに、取引先の会社の方が社員旅行を検討する際、お薦めの旅館を紹介したり、と観光案内もされていらっしやいます。

最後に、中谷支店長に「大宮に来られたらぜひ」と支店からほど近い名所を紹介していただきました。(詳しくは8ページへ)

中谷支店長(前列中央)と大宮支店の皆さん





武蔵一宮氷川神社

会員さんからのオススメ
さいたま市大宮区高鼻町

2000年以上の歴史があるといわれ、大いなる宮居として大宮の地名の由来にもなったという神社。参道は、中山道の「一の鳥居」から約2kmにわたっています。

同じさいたま市にある「鉄道博物館」では、鉄道に関する資料や車両などの展示のほか、子どもも楽しめる体験施設もあります。駅弁の包装紙や、昔福島を通った鉄道車両など、福島県に関するものを色々探してみるのも面白いかもしれません。

ファンクラブ インフォメーション

ご住所が変わりましたら 必ずご連絡ください

会報をお送りしても、返送されてきてしまう方がいらっしゃいます。ふくしまファンクラブ事務局では、1人でも多くの皆様に会報をお届けしたいので、お引っ越しをされましたら、事務局へのご連絡も忘れずお願いします。メール便でお送りするため、郵便局へ転送届を出されても、会報誌は転送されません。また、確実に会報をお届けするために、アパートやマンションの方は、必ずアパート(マンション)名と部屋番号をお知らせください。御協力よろしくお願いたします。

福島の魅力が盛りだくさん ふるさと福島大交流フェア

今回より会場を東京・池袋「サンシャインシティ」に変更して、「ふるさと福島大交流フェア」を開催いたします。

本県とゆかりの深い俳優・菅原文太さんをお招きし、佐藤雄平知事とトークショーを展開します。

また、県内の名産品を試食できるコーナーや、2～3ページでご案内した奥会津編み組細工などが体験できるコーナーもございます。福島の魅力ぎっしりのイベントをご用意させていただきましたので、皆様お誘いあわせの上奮ってご参加ください。名産品が当たるかも!?



(写真は昨年の様子)



平成21年12月20日(日)午後1時～午後4時
サンシャインシティ
ワールドインポートマートビル4階展示ホールA
(東京都豊島区東池袋3-1)

申込方法 ①福島大交流フェア参加希望 ②会員氏名
③郵便番号、住所 ④電話番号
⑤参加人数(ご家族、お友だちなど、ご本人を含めた人数)
⑥会員番号を記載のうえ、
はがき、ファクシミリ、eメールのいずれかでお申し込みください。
※電話での申込みは、ご遠慮願います。

申込締切 平成20年12月10日(木)
申込先 〒960-8670 福島市杉妻町2-16
福島県観光交流課 宛
FAX 024-521-7888

eメール f.fanclub@pref.fukushima.jp
事前にお申込みいただきますと、会場までの地図を
記した「ご案内状」をお送りします。

入場
無料

ふくしまのすてきなもん プレゼントクイズ

クイズに答えてくれた方の中から抽選で、山ブドウ細工のストラップをペアで5組10名様にプレゼント!

三島町で毎年6月に開催される編み組細工に関するまつりは何でしょう? ヒントは3ページ...



問題

答:ふるさと会津〇〇まつり 山ブドウ細工ストラップ(イメージ)

応募方法 はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、会員番号、クイズの答え、今回の会報の感想などを明記し、下記のあて先へお送りください。

応募締切 12月25日(金) 必着
あて先 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16
福島県観光交流課

ふくしまファンクラブ「プレゼント」係

*当選者の発表は賞品の発送に代えさせていただきます。お預かりした個人情報は、賞品の発送などファンクラブに関する事務以外に使用することはありません。福島県個人情報保護条例に基づき、個人情報の目的外利用はいたしません。